



大学院医学薬学研究部

助教 辻 真弓さん (環境生命科学)

Tsuji Mayumi

●プロフィール

- 2001年 鹿児島大学医学部医学科卒業
鹿児島大医学部附属病院にて研修医
- 2003年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科疫学・予防医学
博士課程入学
- 2007年 熊本大学大学院医学薬学研究部公衆衛生・医療科学研究員
医学博士取得
- 2008年 熊本大学大学院医学薬学研究部公衆衛生・医療科学助教

鹿児島大学時代にロールモデルに出会う

臨床ばかりでなく他にもフィールドがあると知り、予防医学を専門に学ばれた辻さん。

学生時代に基礎医学系研究者と出会う機会は少なく、また研究職に就くのが困難であるために、医学部から研究職に行く人は非常に少ないのだそうです。辻さんの場合、知り合いの女性が基礎医学を学び研究者になったこともあって、医学部生時代から、基礎医学は割と身近な存在でした。

しかしながら、決定的だったのは、鹿児島大学時代の教授と准教授の存在でした。准教授は家庭を持ち、子どもを育て、しかも良いバランスで仕事をされている女性でした。無理をしているようには見えず、しかも良い仕事をしている女性の存在には「引っ張られました」。

辻さんは結婚し、子育てをしながら大学院で勉強を続けましたが、身体が悲鳴を上げてしまい、一時は命に係わるような状況を体験します。

娘のために小児疾患の研究を

一度身体をこわしてから、辻さんは考え方を改めます。「無理しすぎない」「自分の限界を知る」ようになり、何でも自力でやろうとするのを止めます。両親の世話になり、夫に協力してもらい、ファミリーサポートセンターにもお願いしました。6歳になるお嬢さんも含めてみんなで辻さんを支えてくれるので、「感謝しています」。また、「気分転換もうまくなりましたよ!」と、辻さん。

お嬢さんがアトピーだったのに、どこを受診するのか判断が難しいと思った辻さんは「自分で勉強するしかない」と、2002年から小児アレルギー疾患を中心に研究をされます。2005年から2年間は臨床現場においてアトピー性皮膚炎、食物アレルギーの子どもたちの診療に携わりました。2007年には学位(医学博士)を取得。2008年3月には日本衛生学会総会で研究成果を発表し、第78回日本衛生学会総会学会賞を受賞されました。

今できることをひとつずつ

熊本に帰って、辻さんは月に一度、県下の保健所の5ヶ月児検診に通っています。質問は、あせもや日焼け止めに始まり、小児アレルギー疾患の子を持つお母さんの悩みまで、それぞれ「なんでもあり」です。年齢的に変わらないので、同じ目線で話せるところが楽しく、地域とのかかわりの中で「少しでも役に立てれば」と思っています。

自分のペースで、でも、やる時はやる!

これまでの経験からも若者たちには「好きなことをして」欲しいと願っています。

失敗しても成功しても、自分で選んだことなら納得がいくから。そして自分の限界を認めることも必要で、「場合によっては、あきらめることも肝心」。そこから、別の方法を探せばいいのだとおっしゃいます。

「女性は長生きなんだから、あせらずに、今出来ることをひとつひとつこなしていけばいいのよ」という先輩医師の言葉に励まされながら、家庭と研究を大切にしています。



第78回 日本衛生学会学会賞 受賞(2008年3月)

自分のペースで、でも、やる時はやる!